

# 「学び」イベント情報 募集中!!

研究者の皆様が市民へ向けに行なっている公開講座やシンポジウム等の情報提供をお待ちしております! 掲載料は無料です。



- 3 MAR**

**オープン講座 第8回「切込焼雑考」** **3月4日(日)**  
13:30▶15:00  
講師 手塚 均(東北歴史博物館職員) 無料 要申込  
場 所 東北歴史博物館 1階研修室または3階講堂 定員▶70名  
主催者 東北歴史博物館 問合せ TEL 022-368-0106  
URL http://www.thm.pref.miyagi.jp/event/event\_open\_rec23.html
- 東北大学リベラルアーツサロン第15回「暗殺者の山城～イラン・ニザール派イスラム教徒の遺跡～」** **3月16日(金)**  
18:00▶19:45  
講師 北川 誠一(東北大学大学院国際文化研究科教授) 無料 申込不要  
場 所 せんだいメディアテーク 1階オープンスクエア  
主催者 東北大学 問合せ TEL 022-217-4977  
URL http://cafe.tohoku.ac.jp/
- 性と人権を考える** **3月23日(金)**  
18:00▶20:00  
コーディネーター 浅野 富美枝(宮城学院女子大学教授) 無料 要申込  
場 所 宮城県公文書館3階 定員▶20名(応募者多数のとき抽選)  
主催者 財団法人みやぎ婦人会館 問合せ TEL 022-299-4530  
URL http://www.fujin-kaikan.or.jp/
- 東北大学サイエンスカフェ 第78回：大脳磁気生理学の最前線～脳活動をみる、脳を刺激する、てんかん患者を救う!～** **3月30日(金)**  
18:00▶19:45  
講師 中里 信和(東北大学大学院医学系研究科教授) 無料 申込不要  
場 所 せんだいメディアテーク 1階オープンスクエア  
主催者 東北大学 問合せ TEL 022-217-4977  
URL http://cafe.tohoku.ac.jp/

※登場者(講師、演者、担当者)については敬称略



## 読者の声

第14号へもたくさんのお便りが届いています。ほんの一部をご紹介します。

### 第14号 「芸術」

私はインターネットをしないのでいろいろな情報を知ることができてありがたいです。14号では三木先生の創造力とは自分を幸せにする力というお話で年と共に目のことばかりにふりまわされている自分に気がつき、これからの生活を豊かにするためゆったりと構え、創造力を養いましょう! ありがとうございます。(塩竈市・71歳 女性)

林先生がおっしゃっていた、「自分が良いと思ったものが良いもの」という言葉がすごく印象的でした。人それぞれ見方が違って良い、それこそが美術ではないかと思いました。(仙台市泉区・23歳 女性)

「芸術の秋」…芸術と聞くと、敷居が高いと思っていました。が、実に幅広く、楽しくおもしろいと知りました。林先生の作品を見たくなりました。 ※Q1の答えの「嵌」(がん)、変換の際(がん)で「嵌」、(かん)で「嵌」。初めて知った字、勉強になりました。(石巻市・35歳 男性)

東北生活文化大学の先生のお話!! 仙台の身近な学校ですが、何をやっているのかほとんど(全然)知りませんでした。しかし、なかなか面白いことを教えているのにおどろきでした。(仙台市太白区・48歳 男性)

「まなびのめ」のパンフレットを初めて見ました。非常に関心のあるイベントが多く感じました。特に今回の「学びの庭におじゃまします」で何歳からでも創造で自分の可能性が開けるとの内容は、私自身に活力を与えてくれそうです。(仙台市青葉区・65歳 男性)

大学の先生の貴重なお話がまとめられており読み応えがあります。こういった知的なフリーペーパーがスーパーで入手できるというのは素晴らしいことだと思います。いつも楽しく拝見しています。(仙台市青葉区・30歳 女性)

「学び」イベントが豊富なことに驚かされました。そのイベント等に参加した方々の反応、反響も載り、身近に参加してみようと思いました。(多賀城市・61歳 女性)

第16回

## 名著への旅



『続・未来を生きる  
トインビーと  
“あなた”の対話』  
アーノルド・J・トインビー  
毎日新聞社  
(1971年6月20日 発行)

英国の大歴史学者として名を残したトインビーの親しみ易い本である。1971年に毎日新聞社が募集し厳選した、一般読者14人によるトインビーへの質問とその回答が収められている。当時大学者82歳である。この企画にまず拍手を送らねばなるまい。「老人と生(20代・女性)」「情報の洪水(60代・男性)」「過去の世代の罪(10代・女性)」「世界国家(30代・男性)」「自己中心性(20代・男性)」「ウーマン・リブ(50代・女性)」などのテーマに示されるように、教えをこいねがう質問者の衷心からの思いは熱く真摯である。

「～についてどうしたら(考えたら)よいか」という直截的な問いに、普通の人間はなかなか答えられるものではない。この中でトインビーは決して逃げることをしない。自分をも含めて是は是、非は非とし、長年の研究と深遠な洞察から紡ぎ出される言葉はさすがに重みがある。

記憶が正しければおよそ30年程前、東京高円寺の古書店で買ったものである。今回Internet上で調べたところ、ある程度古書市場に出品されている。現代にあっても座右に置いて損はない書物である。(曜)



もっと学べる! 「まなびのめ」Web版では、バックナンバーの研究者インタビュー(創刊準備1号～第15号)がご覧いただけます!

### テーマ一覧

- 準備1号 「音楽と医学と工学が出会うところ」
- 準備2号 「「なぜ」を追究すれば交通事故は減らせる」
- 創刊号 「環境を考える」 第8号 「いのち」
- 第2号 「食を考える」 第9号 「科学の哲学」
- 第3号 「開発の現場」 第10号 「スポーツと暮らし」
- 第4号 「教える学ぶ考える」 第11号 「都市×デザイン」
- 第5号 「宇宙を仰いで」 第12号 「給食」
- 第6号 「図書館の科学」 第13号 「平和」
- 第7号 「元素を探る」 第14号 「芸術」

ぜひWeb版を  
ご覧ください http://www.manabinome.com



学びの庭におじゃまします  
次号：「生きものに学ぶ」  
2012年4月5日発行予定

「氣」になる「氣」…当社は言葉を組み立てる職業として、漢字の本来の成り立ちである「本字」を大切にしたいという思いがあり、社名に使われる本字の「氣」を使用することでその思いを表しています。

〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町8番45号  
笹氣出版印刷株式会社内「まなびのめ」編集部

FAX **022-288-5551**  
TEL **022-288-5555**  
(FAXは24時間受付 電話受付時間10:00～16:00 土・日・祝日除く)  
✉ manabinome@sasappa.co.jp

「まなびのめ」 只野俊裕 佐藤曜 川又進 笹氣義幸 遠藤洋子 菅野保広 伊藤秀平  
編集部 齋藤麻実 菅野耕平 三上志穂 オブザーバー：寺田征也(東北大学大学院)  
協力 株式会社市瀬 有限会社阿部正志製本 株式会社ティクワン

この印刷物はグリーン基準に適合した印刷資材を使用して、グリーンプリンティング認定工場が印刷した環境配慮商品です。用紙は適切に育まれた森から生まれたFSC®認証紙を使用し、インキは環境にやさしい植物油インキを使用しています。

FREE ¥0 ♡ご自由にお持ち帰りください。



「学び」 学術の世界と市民をつなぐ情報誌

# まなびのめ



学びの庭におじゃまします  
伝統に学ぶ

## 大工たちが伝えてきた伝統の建築技術



東北工業大学 工学部 教授  
(日本建築史)

### 高橋 恒夫 先生

## 民間が伝えてきた生薬の伝統を未来に



東北薬科大学 薬学部 教授  
(生薬学)

### 吉崎 文彦 先生

〈行ってみよう! 「学び」の場所へ〉  
● これからの主な「学び」イベント33件掲載!  
● 「学び」イベントに行ってきました

● 名著への旅 『続・未来を生きる  
トインビーと“あなた”の対話』  
(アーノルド・J・トインビー)

● 第2回「まなびのめ」Live版レポ  
● 読者の声

図書カード  
懸賞付  
クイズあります

季刊誌  
★  
第15号  
2012.1



Web版は随時更新中!

まなびのめ 検索

http://www.manabinome.com

発行/ 笹氣出版印刷株式会社

これからの主な

## 「学び」イベント

有料 無料 要申込 申込不要

▲このマークはイベント参加についての有料・無料または事前申込の有無について記しています。

ここに掲載する情報は、各研究・教育機関や施設が公開している情報を基に掲載していますので、当社の責任で開催を保証するものではありません。日時、内容に変更がある可能性がありますので、詳しくは各問合せ先へご確認ください。  
有料・要申込の場合の料金や申込方法など詳細はWeb版に掲載しております。ぜひご覧ください。



定期開催  
トワイライトサロン「MA☆(マスター) 毎週土曜日  
土佐誠の宇宙が身近になる話」 17:00▶17:45  
講師 土佐 誠(仙台市天文台長) 無料 申込不要  
場 所 仙台市天文台 オープンスペース 他  
主催者 仙台市天文台 問合せ TEL 022-391-1300  
URL http://www.sendai-astro.jp/



1 JAN  
オープンカレッジ 1月13日(金)  
『「使いやすい機械」とは何か』 18:30▶20:00  
講師 三浦 直樹(東北工業大学工学部情報通信工学科講師) 無料 申込不要  
場 所 東北工業大学一番町ロビー 4階ホール 定員▶60名  
主催者 東北工業大学 問合せ TEL 022-723-0538  
URL http://www.tohtech.ac.jp/



開館30周年記念 特別展「宮城県美術館・宇都宮美術館  
所蔵作品によるグレートカンティンスキーの時代」 1月14日(土)～3月4日(日)  
9:30▶17:00  
有料 申込不要  
場 所 宮城県美術館  
主催者 宮城県美術館 他 問合せ TEL 022-221-2111  
URL http://www.pref.miyagi.jp/bijyutu/mmoa/ja/main/



公開講演会「いま、生きるあなたへ」 1月14日(土)  
13:30～  
講師 山折 哲雄 無料 要申込  
場 所 仙台市シルバーセンター 交流ホール 定員▶300名  
主催者 社会福祉法人仙台いのちの電話 問合せ TEL 022-718-4401  
URL http://www6.ocn.ne.jp/~sen/



ワークショップ『岩手・大野木工の「食育と木工食器の作り手と使い手のワークショップ」』 1月14日(土)  
16:00▶18:00  
無料 申込不要  
場 所 東北工業大学一番町ロビー 4階ホール 定員▶60名  
主催者 燈籠堂グループ+アライヴデザイン 問合せ TEL 022-723-0538  
URL http://www.tohtech.ac.jp/



オープン講座 1月15日(日)  
第2回「興野コレクションの士俣」 13:30▶15:00  
講師 佐藤 憲幸(東北歴史博物館職員) 無料 要申込  
場 所 東北歴史博物館 1階研修室または3階講堂 定員▶70名  
主催者 東北歴史博物館 問合せ TEL 022-368-0106  
URL http://www.thm.pref.miyagi.jp/event/event\_open\_rec23.html



ミニ企画展「縄文人のなりわい 1月20日(金)～3月18日(日)  
～北小松遺跡からのメッセージ」 9:00▶16:45  
有料 申込不要  
場 所 仙台市縄文の森広場  
主催者 仙台市縄文の森広場 問合せ TEL 022-307-5665  
URL http://www.city.sendai.jp/kyouiku/jyoumon/guidance/kikaku/



東北大学リベラルアーツサロン 第14回「国際 1月20日(金)  
交流が人を変える、街を変える、世界を変える!」 18:00▶19:45  
講師 末松 和子(東北大学大学院経済学研究科准教授) 無料 申込不要  
場 所 せんだいメディアテーク 1階オープンスクエア  
主催者 東北大学 問合せ TEL 022-217-4977  
URL http://cafe.tohoku.ac.jp/



史料講読講座「文献史料からみる 平安 1月21日(土)～  
時代の多賀城とその周辺」(全4回) 13:30▶15:00  
無料 要申込  
場 所 東北歴史博物館 1階研修室 定員▶40名  
主催者 東北歴史博物館 問合せ TEL 022-368-0106  
URL http://www.thm.pref.miyagi.jp/event/event\_siryou\_rec.html



※登場者(講師、演者、担当者)については敬称略

# 大工たちが伝えてきた伝統の建築技術

## 広く知られた気仙大工という“ブランド”

日本の伝統建築と聞くと、皆さんは有名なお寺や神社、五重塔などを思い浮かべるかもしれません。そうした建物を見てると心が落ち着くとか、木造建築に特有の、年を経たからこそ味わいが好きだという方もいらっしゃるでしょう。私も子どもの頃からお寺や神社の建物が大好きで、高校時代に関西で歴史的建造物を見たことが、建築の歴史や木造建築を専門に研究するきっかけになったように思います。

学術研究の世界では、これまで大規模な伝統建築は、しばしばその建物を建てさせた有力者や、著名な大工の棟梁の名前とともに語られてきました。しかし私が注目し、研究の対象としてきたのは、無名の職人たちです。

日本の各地で古くから造られてきた寺社や大規模な住宅には、非常に高度な技術が用いられています。しかし実は、普通の民家の建築や家具・建具などの加工にも、たいへん優れた技が発揮されてきたのです。歴史をさかのぼって、こうした技を受け継ぎ、発展させてきた日本の大工たちを調べたところ、他の地域の大工との結びつきなど、興味深いことが数多く明らかになりました。

皆さんは「気仙大工」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。気仙とは岩手県の沿岸南部の地域名で、今の陸前高田市、大船渡市、住田町のあたりです。宮城県気仙沼市のすぐ北で、江戸時代は仙台藩の領地でした。ここに集まって住んでいた大工たちが、藩内各地に出稼ぎを繰り返して、寺社建築や土地の有力者たちの大規模な住宅づくりに腕をふるっていました。彼らが気仙大工です。

仙台の城下町にも、「大工町」という地名が残っていることから分かる通り、大工が集まって住む地区がありました。また、それぞれの地域にも大工がいて、一般の民家を建てていま

した。しかし仙台北下以外では、大きな建物の多くは、気仙大工による仕事です。高い技術と豊富な経験、そして強い結束を誇る彼らは、時には災害復旧のために遠くへも出かけていきました。気仙大工という“ブランド”は藩の内外で知られるようになり、それは現代も続いているのです。明治時代に建てられ、120年後の今も登米市に残る高等尋常小学校の建築を支えたのも、気仙大工の技術でした。

古い木造建築物が解体や修理をされる際に、建築年や大工の棟梁の名を記した「棟札」と呼ばれる札が見つかることがあります。気仙郡居住の大工名を記した棟札は、岩手県南から宮城県北にかけて数多く発見されています。また解体をしなくとも、構造や工法の特徴から、気仙大工の仕事である可能性が高い建物も判別することが可能となっています。

## 大工が集まって住む村が全国にあった

周辺の他の地域に比べると、気仙地域は広大な耕作地にも天然の良港にも恵まれていませんでした。しかし良質な木材となる杉やヒノキが豊かに育つ山と、川と湾がありました。これらを背景に木の伐採から製材までを担う木挽や、建物を建てる大工になる人の割合が増え、代を重ねるうちに、高い技能を持った職人集団になっていったと考えられます。

実は全国的に見れば、気仙大工のように大工が集まって住む地域は他にもあります。山形県には小国大工などの例がありますし、長野県の本曾大工は全国的に有名です。このように、都市部ではなく農村部に集まって住み、出稼ぎを繰り返して暮らす大工のことを、専門的には「在方集住大工」と呼びます。

気仙大工はその典型的な例ですが、それぞれの発生や集住の理由もさまざま、詳しいことはよく分かっていませんでした。そこで私は、気仙大工から始まった研究を発展させ、全国の大工集住の村を訪ね、また彼らの仕事を検証してきました。2010年には、その研究成果の集大成として『近世在方集住大工の研究』（中央公論美術出版）という本をまとめることができました。

陸前高田市の小友町は、気仙大工“発祥の地”とも言うべき地域で、江戸時代から大工の集住が進み大工村を形成していたところでした。また同市今泉集落は、藩政期を通じて気仙郡の郡政の中心地で、この集落のほぼ中央の山手側には気仙郡の大肝入を代々務めていた広大な吉田家屋敷が配置されていました。藩主が領内を巡視した際に宿泊所になったところでもあり、仙

台藩で見られる最後の大肝入屋敷でした。その吉田家住宅は享和2年(1802)に気仙郡の御郡棟梁を務めた七五郎が建設したことも判明していました。したがって、大肝入吉田家住宅は気仙郡と気仙大工の象徴的な住宅建築といえ、岩手県の文化財に指定されていました。さらに今泉集落については、藩政期の貴重な史料が数多く発見され、なかでも七五郎の家からは、畳1枚ほどもある町場全体の詳細な絵図が発見されました。この絵図には、町場の家の一軒一軒について、間取りや柱の位置までが細かく記されていました。それぞれの家の広さや、どこに二階建ての家があったかが明らかになり、私は学生とともに、町場全体の立体模型を造りました。茅葺きはごく一部で、多くは杉の皮で葺いて石を乗せた石置き屋根であることが他の史料から分かったため、それも再現しました。

しかし皆さんご存じの通り、陸前高田市は東日本大震災で大津波に見舞われました。今泉地区も壊滅的被害を受け、吉田家住宅を含め、ほとんどの建物が倒壊、流失してしまいました。貴重な史料の数々も全て流されてしまい、今では私の研究室にその写しの一部が残っているだけとなりました。

## 見直される伝統的な価値観と技術

今泉地区には左官職人も多く、質の高い木造建築や土蔵が数多く残されていました。町場の家々には、きまって表通りから裏に抜けるための半間(約90cm)の通路が設けてあり、二階建ての家ではその上に二階部分が突き出しています。このきまりは近年建てられた家でも守られ、この町特有の景観を形成していました。

千年にわたって人が住み続け、大工が集まって住む町として発展してきた歴史ある町が、津波で失われたことは残念でなりません。私は今泉に限らず、歴史ある町の真の再生のためには、地域の歴史と文化に学び、これを未来に伝える努力をすべきだと考えています。

私たちはこれまで、豊かさや便利さを追求してきました。しかし東日本大震災をきっかけに、忘れられていた価値を大切にしようという気運が高まっています。古い結びつきとして否定されがちだった、地縁や血縁が再び見直されつつあります。自然とともにある暮らし、地域内での自給システム、そして地域社会と職人との関係などもそうです。日本の伝統建築を支えてきた大工の技術もまた、「温故知新」の心で学び、再評価する必要があるのではないのでしょうか。

懸賞

図書カードを  
当てよう！ まなびめクイズ 正解者の中から抽選で3名様に  
図書カード1000円分をプレゼント

Q.1 地方在住で建築の出稼ぎを生業とした大工集団を何という？

※応募にはQ1とQ2両方の答えが必要です。吉崎文彦先生の記事もご覧ください。

応募  
方法

はがき、FAX、E-mailのいずれかで、①住所、②氏名、③年齢、④職業、⑤電話番号、⑥クイズの答え2つ、⑦「まなびめ」の入手場所、⑧内容についての感想を明記して編集部までご応募ください。

※当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。  
※応募いただいたお客様の個人情報は弊社主催のイベント案内、連絡及び発送に限り利用させていただきます。

【応募締切】2012年2月29日 当日消印有効

世界最古の木造建築である奈良の法隆寺に代表される通り、日本の木造建築の技術は、古代でも高度に発展していました。確かに最初は、大陸から伝来した技術だったでしょう。しかし、中国や朝鮮の木造建築と見比べて、日本の木造建築技術は詳細な部分まで計算された独自の高度な技術を持って展開してきたことを強く感じました。そしてそれを支え、今日に伝えてきたのは、無名の大工職人たちだったのです。

日常的な「衣食住」のうち、住である建築は、市民の皆さんにとって比較的難しく考え、専門家でないと思われがちかもしれません。しかし実は皆さんは、毎日を暮らすことで建物についての感覚を磨き、日曜大工などを通じて経験的に学んでいます。木造建築やその技術について学ぶとき、その感覚や経験はきっと役に立つはずですよ。

残念なことに、現代の大規模な建築物はほとんどが木造以外の構造です。次の世代を育成する大学でも、木造建築を専門的に学ぶ講座の開講は少ないのが実情です。しかし、私は木造建築にはまだまだ大きな可能性があると思っていますので、木造建築とその技術を学ぶ機会を、もっと多くしたいと思っています。市民の皆さんにも、ぜひ日本の伝統建築、木造建築に、これまで以上に興味をもっていただければと願っています。

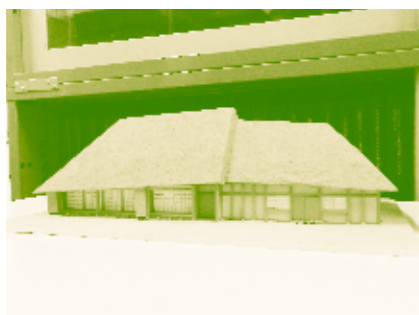
(取材=2011年11月24日/東北工業大学・5号館5階 会議室にて)



東北工業大学 工学部 教授  
専攻=日本建築史

## 高橋 恒夫 先生

〈プロフィール〉  
(たかはし・つねお) 1948年宮城県生まれ。東北工業大学工学部建築学科卒業。工学博士(東京大学/建築史・意匠)。東北工業大学講師・助教授などを経て、1995年より現職。



大崎地方古民家のオリジナル模型 ▲

学びの庭におじゃまします

「伝統に学ぶ」のお二人目は、東北薬科大学・吉崎文彦先生。長い歴史の中で伝承されてきた「生薬」について、現代の科学で研究する「生薬学」もまた、大変興味深い世界です。

# 民間が伝えてきた生薬の伝統を未来に

## アスピリンはヤナギの成分をヒントに生まれた

生薬とは、植物をはじめとする天然由来の薬用素材に、乾燥などの加工を施して薬にしたものです。素材としては動物や鉱物も用いられますが、割合としては植物が多く、山野に野生しているありふれたものも少なくありません。

私の大学時代の恩師である竹本常松先生は、「植物は全て薬になる」とおっしゃっていました。私たちが薬として見出して用いることができれば、自然界のさまざまなものが生薬になりうるのです。また生薬の中には、単独では特別な働きをしないのに他の生薬と共存することで、その生薬の効果を高める働きを持つものもあります。こうした生薬の効用の科学的根拠を探り、医薬学や医療の発展に寄与しようとする学問が生薬学です。

生薬と聞くと、漢方薬をイメージなさる方が多いかもしれませんが。しかし実は、生薬は西洋にもありますし、生薬の研究が、純粋な化合物である西洋薬の開発に結びつくこともあります。ヨーロッパでは、古くからヤナギの一種に解熱・鎮痛作用が知られていました。やがて19世紀にその樹皮から有効成分であるサリシンが単離され、次に誘導体であるサリチル酸が合成されて医療に使われます。そしてさらには副作用がより少ない解熱・鎮痛薬、アセチルサリチル酸の開発へとつながりました。この化合物はアスピリンと呼ばれ、皆さんご存じの通り、現在



東北薬科大学 薬学部 教授  
専攻=生薬学

## 吉崎 文彦 先生

（プロフィール）  
（よしざき ふみひこ）1947年青森県生まれ。東北大学医学部薬学科卒業。東北大学大学院薬学研究所博士課程修了。薬学博士。東北大学助手、北里研究所東洋医研 研究員、東北薬科大学助教授を経て、1995年より現職。

も広く使われる医薬品になっています。

日本では、明治時代になってドイツを中心とした西洋医学が入ってくるまでは、薬といえば生薬のことでした。古くから使われ続けている、日本の代表的な民間薬であるゲンノショウコ、センブリ、ドクダミなどは、生薬の中では「和薬」と呼ばれています。これに対して甘草、大黃、麻黄など中国から入ってきたものを「漢薬」、もともと欧米などで使われていたゲンチアナ、ウワウルシ、ペラドンナコンなどを「西洋生薬」と呼んで区別します。東洋に限らず、私たち人間はこうした生薬を、長い歴史と伝統の中で効果を確認しながら、巧みに用いてきたのです。

漢方薬は、基本的には何種類かの生薬を配合したものです。この配合内容は大部分が中国の古典の記述に基づいています。日本では特に1980年代以降、生薬や漢方薬の薬理的・生物学的分析が進んだことで多くの科学的根拠が集積され、同時に医療現場でも多くの漢方薬が使われるようになりました。西洋薬は開発にあたって、動物実験などで効果や副作用を確認します。これに対して漢方薬は、言うなれば“人体実験”を何千年にもわたって繰り返してきた結果を記述した古典を伝統として受け継ぎ、発展させてきたものと言えるでしょう。

## 漢方薬と漢方医学の特徴は

私たちの多くは、ふだんは西洋医学の体系で診断を受け、治療を受けています。そして一般に西洋医学では、病氣の原因を突き止め、病原菌や細胞や組織などの「悪い部分」だけを、薬で攻撃し、また手術で除去するという治療をしてきました。

これに対して漢方医学では、体全体のバランスを見て、あるいは心と体をつつのものとして見て治療します。その人の症状や体質を見極めて「証」と呼ばれる診断基準を大切に、これに基づいて最も適切と思われる漢方薬を適用してきました。西洋薬に比べて漢方薬が、穏やかにゆっくりと効くとか、副作用が少ないというイメージがあるのはこのためです。

実は「漢方」は、現在「中医学」と呼ばれている中国の伝統医学とは別のものです。もともとは中国から伝来した医学ですが、時間をかけて日本に合うように発展させてきたものです。そして今の日本では、西洋医学と漢方医学、西洋薬と漢方薬を対立するものとして考えるのではなくそれぞれの長所を取り入れ、患者さんの病状に合わせて使い分けようという考え方が一般的です。

現在漢方薬はメーカーが製造したエキス剤として使用される



東北薬科大学所蔵の中でも貴重な標本虫に寄生する虫草「エゾハルゼミタケ」▶

ことが最も多くなっています。病院で医師が処方すると保険も適用されますし、薬剤師などから薬局で入手することも可能です。たとえば一部の風邪の症状に効果があるとされる葛根湯は、処方箋が必要な医療用と処方箋がなくても薬局などで購入できる一般用の二種類があって、その主な違いはエキスかっこんとうの濃度です。いろいろな漢方薬が処方箋なしに店頭で購入できるようになったことで、漢方薬は一般市民にとってもずいぶんなじみ深いものになりました。また一方では、漢方薬は基本的には煎じて服用の方がエキス剤よりも高い効果が得られると一般的に考えられています。

日本には医師の免許を持つ人が30万人近くいます。しかし、このうち日本東洋医学会による認定を受けた「漢方専門医」は2,200人余に過ぎません。資格を取得するには漢方による治症例の報告や3年間の研修、さらには筆記試験などのハードルがあります。裏をかえせば、漢方薬の知識が充分でないために「この病氣・病名にはこの漢方薬」と、西洋薬と同じ感覚で使用する医師や漢方には全く興味をもたない医師がたくさんいるということになります。

人工的に作り出すことができる化合物である西洋薬に比べると、天然品である生薬はさまざまな条件によって成分が変わりやすく、非常にデリケートです。いかにして品質の良い生薬を入手できるかが、治療効果を高めるポイントになります。また、漢方薬の中には、今日の医療の大きな課題になっている様々な難病に対して効果が確認されたり期待されたりしているものもあります。理由はよくわからなくても劇的に効く場合があるので驚きです。現代の医療では、治療の有効性や「なぜ効いたのか、効くのか」についてひとつひとつ明確な科学的根拠を求め

**懸賞** 図書カードを当てよう！ **まなびめクイズ** 正解者の中から抽選で3名様に図書カード1000円分をプレゼント

**Q.2 漢方薬のエキス剤の「医療用」と「一般用」、主な違いは？**

※応募にはQ1とQ2両方の答えが必要です。高橋恒夫先生の記事もご覧ください。

**応募方法** はがき、FAX、E-mailのいずれかで、①住所、②氏名、③年齢、④職業、⑤電話番号、⑥クイズの答え2つ、⑦「まなびめ」の入手場所、⑧内容についての感想を明記して編集部まで応募ください。

※当選の発表は発送をもって代させていただきます。  
※応募いただいたお客様の個人情報は弊主催のイベント案内、連絡及び発送に限り利用させていただきます。

【応募締切】2012年2月29日 当日消印有効

薬が効果的に用いられる機会が失われてはならない、理屈はともかく患者の病いと身体が治ればそれでいい、と考えています。

## 様々に用いられてきた生薬

世界的に見れば、発展途上国を中心に、生薬は今も広く活用されています。私はサモア、フィジー、モンゴルなどに出かけて、現地の薬用植物や、生薬の用いられ方を調べてきました。

フィジーとサモアでは島中の薬局を全て回って見ましたが、売られているのは西洋薬ばかりで生薬は全く見つからず、ひどくがっかりしたのを覚えています。米国などで学んだ薬剤師が西洋薬を扱っているのです。しかし西洋薬は高価なこともあって、これを購入せずに自前の薬草を用いている人々が大勢いました。庭や道端、山に生えている植物を、必要時に採ってきて使うのです。加持祈祷のたぐいや薬草療法を行う伝統医もいました。モンゴルでは、僧侶が症状別にそれぞれ異なるお経を唱えて病氣を治そうとするとともに、生薬を組み合わせた処方を与えていました。科学的根拠が証明されていないからというだけの理由で、こうした伝統医療や民族薬物を否定することはできません。大切なのは患者が元気になるかどうかであって、むしろ私たちがまだ知らない優れた生薬、伝統医療が、世界各地に存在するかもしれないのです。

私は植物が好きで、有機化学に関心があったことから、生薬研究の道に進みました。生薬は日本の貴重な伝統文化の一つですし、薬用植物は人類共通の文化財です。現代に生きる私たちにも、これを未来に伝えていく義務があると思います。そして、それを主に担うのは、大学の研究者よりも、むしろこれまでがそうであったように一般民間の方々なのではないでしょうか。

生薬は民間薬として用いられてきたものが日本にも数多くありますし、漢方薬や西洋薬として用いられる以外にも、家伝薬や薬用酒に配合されるほか、有効成分を抽出するための原料になることもあります。このように多様な用いられ方をしている生薬について、多くの市民の皆さんにも知り、学ぶ機会を持っていただければと思います。

本学には附属薬用植物園があります。通常は公開していませんが、あらかじめ大学に連絡していただければ見学が可能ですし、市民向けの見学会も開催しています。詳しくは、どうぞ大学までお問い合わせください。

（取材= 2011年11月16日 / 東北薬科大学・教育研究棟6階 生薬学教授室にて）

Web版はより多くの情報を  
随時更新しています。

QRコード

「まなびのめ」  検索

<http://www.manabinome.com>

**1 JAN**

**オープン講座 第3回「過去の歴史地震・火  
山災害に学ぶ―貞観地震と陸奥国の復興―」** **1月22日(日)**  
13:30▶15:00  
講 師 柳澤 和明 (東北歴史博物館職員) 無料 要申込

場 所 東北歴史博物館 1階研修室または3階講堂 定員▶70名

主催者 東北歴史博物館 問合せ TEL 022-368-0106

URL [http://www.thm.pref.miyagi.jp/event/event\\_open\\_rec23.html](http://www.thm.pref.miyagi.jp/event/event_open_rec23.html)

**縄文講座 第2回「縄文人の心と形」** **1月22日(日)**  
13:30▶15:00  
講 師 小杉 康 (北海道大学教授) 無料 申込不要

場 所 仙台市縄文の森広場

主催者 仙台市縄文の森広場 問合せ TEL 022-307-5665

URL <http://www.city.sendai.jp/kyouiku/jyoumon/>

**企画展 「地底の森ミュージアム 2011」** **1月24日(火)～3月18日(日)**  
9:00▶16:45 有料 申込不要

場 所 地底の森ミュージアム 展望ラウンジ

主催者 地底の森ミュージアム 問合せ TEL 022-246-9153

URL <http://www.city.sendai.jp/kyouiku/chiteinomori/>

**東北大学サイエンスカフェ 第76回：超低温の神秘・超伝導の不思議** **1月27日(金)**  
18:00▶19:45  
講 師 小池 洋二 (東北大学大学院工学研究科教授) 無料 申込不要

場 所 せんだいメディアテーク 1階オープンスクエア

主催者 東北大学 問合せ TEL 022-217-4977

URL <http://cafe.tohoku.ac.jp/>

**実験教室 「化学のふしぎ 電気を流して液体実験」** **1月28日(土)**  
13:00▶15:00  
講 師 相馬 知彦 (宮城県宮城第一高等学校) 無料 要申込

場 所 東北電力グリーンプラザ コミュニティールーム 定員▶25名(小学校4～6年生)

主催者 東北電力グリーンプラザ 問合せ TEL 022-225-2969

備考 締切 1月14日必着

**ジェンダー論講座 (7) 「産婦人科医療に見るジェンダー」** **1月28日(土)**  
15:30▶17:00  
講 師 村口 喜代 (村口きよ女性クリニック院長) 有料 要申込

場 所 エル・ソーラ仙台 大研修室(アエル28階) 定員 50名 (先着順)

主催者 (財) せんだい男女共同参画財団 問合せ TEL 022-268-8044

URL <http://www.sendai-l.jp>

**オープン講座 第4回「貝塚と津波」** **1月29日(日)**  
13:30▶15:00  
講 師 相原 淳一 (東北歴史博物館職員) 無料 要申込

場 所 東北歴史博物館 1階研修室または3階講堂 定員▶70名

主催者 東北歴史博物館 問合せ TEL 022-368-0106

URL [http://www.thm.pref.miyagi.jp/event/event\\_open\\_rec23.html](http://www.thm.pref.miyagi.jp/event/event_open_rec23.html)

**オープンカレッジ「液晶ディスプレイ ～原理から最新技術・未来像～」** **2月 3日(金)**  
18:30▶20:00  
講 師 宮下 哲哉 (東北工業大学工学部知能エレクトロニクス学科教授) 無料 申込不要

場 所 東北工業大学一番町ロビー 4階ホール 定員▶60名

主催者 東北工業大学 問合せ TEL 022-723-0538

URL <http://www.tohtech.ac.jp/>

**まちなか美術講座 第24回「ドイツ近代美術への招待」** **2月 4日(土)**  
13:00▶14:30  
講 師 小椋山 祐幹 (宮城県美術館学芸員) 無料 申込不要

場 所 東北工業大学一番町ロビー 4階ホール 定員▶60名

主催者 宮城県美術館＋東北工業大学 問合せ TEL 022-221-2111

URL <http://www.tohtech.ac.jp/>

**オープン講座 第5回「文化財の保存処 理―被災資料の問題にも触れながら―」** **2月 5日(日)**  
13:30▶15:00  
講 師 及川 規 (東北歴史博物館職員) 無料 要申込

場 所 東北歴史博物館 1階研修室または3階講堂 定員▶70名

主催者 東北歴史博物館 問合せ TEL 022-368-0106

URL [http://www.thm.pref.miyagi.jp/event/event\\_open\\_rec23.html](http://www.thm.pref.miyagi.jp/event/event_open_rec23.html)

※登壇者(講師、演者、担当者)については敬称略

第2回 まなびのめ **使えるんです!**  
**大学図書館**  
東北大学で学び方を学ぶ

**ライブレポ 2011年11月5日(土)**  
東北大学附属図書館 10:00～12:00

第1回「まなびのめ」Live版から1年半。昨年の震災もあり、流れてしまっていた第2回「まなびのめ」Live版をついに開催することができました。ここで、当日の様子的一端をご紹介します。

第2回目となる今回は「使えるんです！大学図書館 東北大学で学び方を学ぶ」と題し、東北大学附属図書館本館を会場に実施しました。第一部は野家啓一先生の公開講座、第二部は図書館探検ツアーという二部構成でした。

今回のLive版の目的は「市民の方々でも大学図書館が使えることを伝えたい！」です。

第一部の野家啓一館長の講座は、題して、「野家館長が語る東北大学附属図書館」。

西洋の図書館史のお話をかわきりに、公共図書館の誕生、近代日本の大学設置から東北大学附属図書館の草創期を経て、大学図書館の現在で話が締めくくられました。

その後の質疑応答では、今後の図書館のあり方や、電子書籍についての質問が飛び交い、人数制限をしなくてはいけないほどに時間いっぱいまで盛り上がりました。



第二部では図書館職員の方による「東北大学附属図書館の利用方法」の説明がなされ、身分証があれば誰でも利用できることの説明から始まり、いよいよ多くの方が待ち望んでいたであろう「まるわかり！図書館探検ツアー」に移ります。

研究閲覧室、展示室ラウンジなど、普段なかなか立ち入ることのできない書庫や館内に、皆さんひっそりと感嘆の声をあげていたようです。

最後は主催者である「まなびのめ」編集部が締め、大きな拍手を頂いて閉会いたしました。

参加者アンケートには、「図書館の利用方法がわかってとても役立ちました」「日頃は入れない書庫や館内を見ることができて満足」や、「継続してイベントをやっていってください」といった声が寄せられ、市民の方々に「学び」の場を提供できたことを改めて実感し、充足感でいっぱいになりました。

東北大学附属図書館は、当日受付で館内の閲覧ができたり、身分証持参で利用登録をすれば貸し出しを受けることができたり、と市民にも開かれています。そのことを今回のLive版参加者だけでなく、多くの市民に知っていただき、大学図書館が大いに活用されるようになることを期待して、これからも「まなびのめ」は「学術の世界と市民をつなぐ」ために努めて参ります。

☆「まなびのめ」Web版で更に詳細を楽しむことができます。  
(<http://www.manabinome.com/>)

参加体験記 「学び」イベントに行ってきました

<特別講座>

■「復興へのリデザイン」#5 地域を再興する

講師 大船渡市長 戸田 公明 氏  
講師 神戸大学大学院工学研究科建築学専攻教授 塩崎 賢明 氏  
2011年7月23日(土) 13:00～ せんだいメディアテーク1階オープンスクエア

学びイベントのハシゴをしました。

震災後 季節の移り変わりを肌で感じるものの、止まってしまったままの時間が自分なりに動き始めたように思います。これも『まなびのめ』の情報効果でしょうか、ありがとうございます。

震災復興へ向け、現職：大船渡市長の話が聞けるので、東北人の誰しもが大変興味深いテーマ。ライフラインや仮設住宅・事業所の復旧・国への働きかけなど、今なお尽力されている姿を拝見する事が出来ました。

震災当時、議会中であった大船渡市はすぐさま災害復興本部となり、人々の要望を聞きつつ、様々な自治体や外国からの救援隊を受け入れて困難を乗り越えて来ました。復興に向けての課題・目標・方針がしっかりとあり、個人・事業所・地域などの計画が整備されているので、沢山の分野で構築されているのだと改めて感じました。

大船渡市長の講座中に地震が!!

誰かの携帯がほぼ同時に緊急地震速報『ンギュッ!ンギュッ!』と鳴り響き、都会の真ん中でガラス張りの建物はとても不安でした。会場はざわめきだしたのに大船渡市長は立っておられたからか、あまり気にもされない様子でサラッと講座を再開されたのでビックリ! 目指すものがあって困難を克服している人は違いますね、さすがです。

塩崎氏の阪神淡路大震災との比較・経験を踏まえて復興のあり方・復興の過程で発生する防災(人災)復興災害についてお話ししました。

災害復興の理念は豊かな人生を送る事ができるようにするそうですが、今回の地震・津波・原発事故ではまだまだ先が見通せず、苦しい生活を強いられている方がいます。

面白いと思ったのは仮設住宅を一時的な建物とせず、終の棲家となるように建設当初から考えるという案。入居期限を過ぎても壊さず、移動させる事ができる家屋なら便利ですね。

この後移動し、更に学びイベントへ参加してきました。

講座名を見て興味があったので申込んだのに、私の勘違いで思っていた内容と違いました。

せっかくなので受講して来ましたが、レジュメの1/3も話が進まず、終盤は先生本人の焦りも感じられてハラハラ。検証用のスライドも多い割には分かりにくく、ちょっと残念な講座内容でした。

(仙台市若林区・女性 太陽)

<学都仙台コンソーシアム・サテライトキャンパス公開講座>

■ ストレスと睡眠の心理学：ストレス緩和と快眠のための基礎知識

講師 東北化学工業大学 佐藤 俊彦 氏

2011年11月26日(土) 15:00～16:30 仙台市市民活動サポートセンター

今回初めて、佐藤先生の講座を聞かせて頂きましたが、初心者の方にも分かりやすく、ゆっくり丁寧な説明でしたので、大変良かったです。

前半にストレスについて、後半に睡眠のお話でした。ストレスの話では、ストレスを緩和する為のお話が、とても印象的でした。「ストレスの見方を変える」「プラスの側面に注目する」「ストレスの認識を変えるのが難しい場合は、まずは気分を変える」「自分の気分転換の方法をもつ」この4つの方法はなるほどと思いました。

呼吸法の実習もよかったです。実際に行う事で、リラックスを実感できますから、いい機会になったと思います。私はカウンセラーの資格取得の時に、一通りの勉強をしておりましたので、良い復習の機会ができてよかったです。また、講座があれば、参加したいと思いました。

(仙台市青葉区 佐々 雄市)

これからの主な  有料  無料  要申込  申込不要

**「学び」イベント** ▲このマークはイベント参加についての有料・無料または事前申込の有無について記しています。

**2 FEB**

**オープン講座 第6回「中世・近世神話の成り立ち」** **2月12日(日)**  
13:30▶15:00  
講 師 笠原 信男 (東北歴史博物館職員) 無料 要申込

場 所 東北歴史博物館 1階研修室または3階講堂 定員▶70名

主催者 東北歴史博物館 問合せ TEL 022-368-0106

URL [http://www.thm.pref.miyagi.jp/event/event\\_open\\_rec23.html](http://www.thm.pref.miyagi.jp/event/event_open_rec23.html)

**対談―ふたつの美術館とコレクション** **2月12日(日)**  
13:30～  
講 師 谷 新 (宇都宮美術館長)・西村 勇晴 (北九州美術館長・前宮城県美術館副館長) 無料 申込不要

場 所 宮城県美術館 アート・ホール

主催者 宮城県美術館 問合せ TEL 022-221-2111

URL <http://www.pref.miyagi.jp/bijyutu/mmoa/ja/main/>

**ターミナルケアを学ぶ** **2月14日(火)**  
10:00～12:00または13:30～15:30のいずれか 無料 要申込

場 所 仙台市シルバーセンター

主催者 (財) 仙台市健康福祉事業団 問合せ TEL 022-215-3711

**地底の森ミニ講座** **2月18日(土)**  
11:00▶12:00 有料 要申込

講 師 地底の森ミュージアム学芸員

場 所 地底の森ミュージアム 定員▶10名(18歳以上)

主催者 地底の森ミュージアム 問合せ TEL 022-246-9153

備考 締切 2月4日必着

**東北大学サイエンスカフェ 第77回：コンピュータで生命の理解を目指すバイオインフォマティクス～ゲノム「情報」がいかに生物の「実体」を形作るか～** **2月24日(金)**  
18:00▶19:45  
講 師 木下 賢吾 (東北大学大学院情報科学研究科教授) 無料 申込不要

場 所 せんだいメディアテーク 1階オープンスクエア

主催者 東北大学 問合せ TEL 022-217-4977

URL <http://cafe.tohoku.ac.jp/>

**性と人権を考える** **2月24日(金)**  
18:00▶20:00 無料 要申込

コーディネーター 浅野 富美枝(宮城学院女子大学教授)

場 所 宮城県公文書館 3階 定員▶20名(応募者多数のとち抽選)

主催者 財団法人みやぎ婦人会館 問合せ TEL 022-299-4530

URL <http://www.fujin-kaikan.or.jp/>

**ジェンダー論講座 (9) 「教育とジェンダー」** **2月25日(土)**  
13:30▶15:30 有料 要申込

講 師 渡藤 恵子 (山形県立米沢女子短期大学理事・学長 / (財) せんだい男女共同参画財団理事長)

場 所 エル・ソーラ仙台 大研修室(アエル28階)

主催者 (財) せんだい男女共同参画財団 問合せ TEL 022-268-8044

URL <http://www.sendai-l.jp>

**オープン講座 第7回「旧石器人の知恵― 細石器刃の製作と使い方―」** **2月26日(日)**  
14:00▶15:30 無料 要申込

講 師 佐久間 光平 (東北歴史博物館職員)

場 所 東北歴史博物館 1階研修室または3階講堂 定員▶70名

主催者 東北歴史博物館 問合せ TEL 022-368-0106

URL [http://www.thm.pref.miyagi.jp/event/event\\_open\\_rec23.html](http://www.thm.pref.miyagi.jp/event/event_open_rec23.html)

**3 MAR**

**第25回 耳の日のイベント** **3月 4日(日)**  
10:00▶12:00 無料 申込不要

講 師 渡邊 健一 (仙台社会保険病院耳鼻咽喉科部長) 他

場 所 仙台市急患センター・仙台市医師会館 2階ホール

主催者 日本耳鼻咽喉科学会宮城県地方部会・宮城県耳鼻咽喉科医会 問合せ TEL 022-717-7304

備考 インターネット上でもバーチャル講演会を開催しています。

**IBD 市民公開講座 in Sendai** **3月 4日(日)**  
13:00▶15:00 無料 申込不要

講 師 渡辺 守 (東京医科歯科大学消化器内科学講座) 他

場 所 良陵会館 記念ホール 定員▶200名予定

主催者 厚生労働省「腸管炎症性腸管障害に関する調査研究」班 (渡辺由) 問合せ TEL 022-717-7205

※登壇者(講師、演者、担当者)については敬称略